

デオア、クチヘル日本在留辨理公使シヤルズツルウエナ以テ此ノ任ニ宛テ双方委任ノ書ヲ照應シ狀實良好ニシテ其至當タルヲ見テ左ノ條款ヲ合議決定スルモノナリ

第一條 交換ノ各地ニ住ム日本及露西亞ノ臣民現ニ其所有セル地ニ

在住セント願フモノハ自個ノ職業ヲ十分營ムヲ得且其保護ヲ受ク

ヘシ又現在所有地界限中ニテ漁獵及鳥獸獵ヲ爲スノ權ヲ有シ且其

生涯中自己ノ職業上ニ關スル諸稅ヲ免スヘシ

第二條 樺太^{サカ}島及クリル島ニ在住セント決定スヘキ各臣民ハ所

有ノ權利ヲ有スヘシ又現今所持ノ不動産ヨリ收入スル物件及所有

ノ權利ヲ證明セル証書ヲ渡シ置クヘシ

第三條 樺太^{サカ}島及クリル島ニ在ル各臣民ハ自個ノ宗旨ヲ尊崇ス

ルコ全ク自由タルヘシ又禮拜堂及墓所ハ毀害スヘカラス

第四條 樺太^{サカ}島及クリル島ニ在ル土人ハ現ニ住スル所ノ地ヲ永

住シ且其儘現領主ノ臣民タルノ權ナシ故ニ若シ其自個ノ政府ノ臣

民ヲラシムコト欲スルハ其居住ノ地ヲ去リ其領主ニ屬スル土地ニ赴

クヘシ又其儘在來ノ地ニ永住ヲ願ハ、其籍ヲ改ムヘシ各政府ハ土

人ヲ去就決心ノ爲メ此條約附録ヲ右土人ニ達スル日ヨリ三ヶ年ノ間

豫メ與ヘ置クヘシ此三ヶ年中ハ是迄ノ通樺太島及クリル島ニテ得

タル特許及義務ヲ變セズシテ漁獵及鳥獸獵其他百般ノ職業ヲ營ム

コ妨ガシト雖モ總テ地方ノ規則及法令ヲ遵奉スヘシ前ニ述フル三

ヶ年ノ期限過ギテ猶双方交換濟ノ地ニ居住セシコト欲スル土人ハ

總テ其地新領主ノ臣民トナルヘシ

第五條 樺太島及クリル島ノ土人ハ各自個ノ宗旨ヲ尊崇スルコト全ク

自由タルヘシ又寺堂及墓所ハ毀害スヘカラス

第六條 此條約附録ノ右五ヶ條ニ載セタル議定ノ件々ハ明治八年五

月七日聖比特堡ニ於テ調印濟ノ條約ニ加ヘタルモ同シ權力アルモノナリ

右段確定之決爲各全權委員此條約附錄ヲ作シ以テ通譯爲シ以テ各其
 印大綱スル決議ヲ行ハシテ其正ノ辭ヲ通シテ其外ノ諸人其正
 東京ニ於テ其寺堂ニ集テ其議スルニ至リテ
 明治九年八月廿二日 露西亞國辦理公使ニツク印上人
 寺島宗則印
 露西亞國辦理公使ニツク印上人
 寺島宗則印
 〔四十七〕 明治九年二月廿二日 太政官第二十四號布告
 今般朝鮮國外別冊ノ通條約取結相成候條此旨布告候事
 修好條規
 大日本國政府ハ其前條約ニ依テ其國土ノ人民ノ保護スルニ
 大朝鮮國外案自其故前條約ニ依テ其國土ノ人民ノ保護スルニ
 カシキカシキ視テ其因テ重テ修好ノ條約ニ親睦ヲ固メテ其欲スルニ
 大日本國政府ハ其前條約ニ依テ其國土ノ人民ノ保護スルニ
 大朝鮮國外案自其故前條約ニ依テ其國土ノ人民ノ保護スルニ

特命副全權辦理大臣議官井上馨ヲ簡シ朝鮮國江華府ニ詣リ朝鮮國政
 府ニ對シ中樞府事申據都總府副總管尹滋承ヲ簡シ各率スル
 二邊國職立決此條款其左開列スルニ依テ日本國政府ハ其
 第一款 朝鮮國ハ自主ノ邦ニシテ日本國ニ對シテ平等ノ權ヲ保有セリ嗣後
 兩國和親ノ實ヲ表シテ其欲スルニ依テ彼此互ニ同等ノ禮義ヲ以テ相
 接待シ其侵越猜嫌ニ依テ其欲スルニ依テ彼此互ニ同等ノ禮義ヲ以テ相
 爲ルニ諸列國ノ悉ク其除シ務メテ其寬裕私通之法ヲ開張シ以テ双方
 均等安寧ヲ永遠ニ期スルニ依テ其欲スルニ依テ彼此互ニ同等ノ禮義ヲ以テ相
 第二款 日本國政府ハ今其國土ノ五個月ノ後時ニ隨テ使臣ヲ派出シ朝
 鮮國京城ニ到リ禮曹判書ニ親接シ交際ノ事務ヲ商議スルニ得ル
 該使臣或ハ留滯セザルニ直ニ歸國スルニ其時宜ニ任スルニ朝鮮
 國政府ハ何時ニ使臣ヲ派出シ日本國東京ニ至リ外務卿ニ親接
 シ交際ノ事務ヲ商議スルニ得ルニ該使臣或ハ留滯セザルニ直ニ歸國ス

ルモ亦其時宜ニ任スルモノトシテ其國文ヲ用ヒ今日對テ
 第三款 嗣後兩國相往復スル公用文ハ日本ハ其國文ヲ用ヒ今日對テ
 年問ハ添フルルニ譯漢文ヲ以テシ朝鮮ハ漢文ヲ用フヘシ
 第四款 朝鮮國釜山ノ草梁項ニハ日本公館アリテ年來兩國人民通商
 地ヲリ今ヨリ從前ノ慣例及歲遣船等ノコト改革シ今般新立セル
 條款ヲ憑準トナシ貿易事務ヲ措辨スヘシ且又朝鮮國政府ハ第五款
 三載スル所ノ二港ヲ開キ日本人民ノ往來通商スルヲ準聘スヘシ右
 二場所ニ就キ地面ヲ賃借シ家屋ヲ造營シ又ハ所在朝鮮人民ノ屋宅
 ヲ賃借スルモ各其隨意ニ任スヘシ
 第五款 京折忠清全羅慶尙咸鏡五道ノ沿海ニテ通商ニ便利ナル港口
 三個所ヲ見立タル後地名ヲ指定スヘシ開港ノ期ハ日本曆明治九年
 二月ヨリ朝鮮曆丙子年正月ヨリ共ニ數ヘテ二十個月ニ當ルヲ期
 ス

第六款 嗣後日本國船隻朝鮮國沿海ニ在リテ或ハ大風ニ遭ヒ又ハ薪
 糧ニ窮竭シ指定シタル港口ニ達スル能ハザル時ハ何レノ港灣ニテ
 三船隻ヲ寄泊シ風波ノ險ヲ避ケ要用品ヲ買入レ船具ヲ修繕シ柴炭
 額ヲ買求ムルヲ得ヘシ勿論其供給費用ハ總テ船主ノ賠償スル
 事ニ雖モ是等ノコトニ就キテハ地方官人民トモニ其困難ヲ體察シ眞實
 ニ憐恤ヲ加ヘ救援至ラザルナク補給取テ吝惜スル無クハ其傍又兩
 國ノ船隻大洋中ニテ破壞シ乗組人員何レノ地方ニテモ漂着スル時
 ハ其地ノ人民ヨリ即刻救助ノ手續ヲ施シ各人ノ性命ヲ保全セシメ
 地方官ニ届出該官ヨリ各本國ニ護送スルカ又ハ其近傍ニ在留セル
 本國ノ官員ニ引渡スヘシ
 第七款 朝鮮國ノ沿海島嶼岩礁從前審檢ヲ經ザレハ極メテ危險トナ
 ル事ニ因リ日本國ノ航海者自由ニ海岸ヲ測量スルヲ准シ其位置淺深
 ヲ審ニシ圖誌ヲ編製シ兩國船客ヲシテ危險ヲ避ケ安穩ニ航通スル

條篤ト管内人民へ諭達可致此旨相達候事

一 傳染牛疫豫防法并斃死後處置

一 若シ一戸ニ傳染牛疫ノ徵候發顯スルトキハ疫牛處分假條例ヲ遵奉

シ之ヲ撲殺シテ其死体ハ速ニ壹丈貳尺ノ地下ニ埋没スルカ或ハ燒

棄スルハ勿論傳染病ニ紛リシキモノト雖モ直様其由ヲ近隣ニ知ラ

セ健牛ヲ所持スルモノト互ニ往來スヘカラス

一 二戸數頭ノ牛ヲ畜養スルモノハ若シ壹頭ノ牛々疫病ノ徵候アルト

キハ直ニ健牛ヲ他ノ牛類無之地ニ引移スヘシ尤疫牛處分假條例ノ

通其場所ヨリ凡方二里以内ノ地ヲ限リトス

一 二地方ニ傳染病發起ノ聞ハズレバ一層注意廐舎ヲ清淨ニシ糞糞ヲ

ト度々取替ヘ濕氣ヲ乾カシ空氣ノ流通ヲ能クスルコトヲ志スルカ

ラス且ツ左ノ藥劑ヲ時々廐内ニ散布スヘシ

一 石炭酸水 一 石炭酸ニ夕位水壹升五合位

又ハ 一 鹽酸カルキ水 一 鹽酸カルキ一合位水ニ舛五合位

右ノ藥品ニ乏シキ地ニテハ生石灰ヲ散布スヘシ

一 飼料ハ和カニシテ消化シ易キ物ヲ與フヘシ

但シ燕麥粉ノ得易キ地ニテハ常食ニ與フルヲ最良トス

一 干草ハ鹽水ヲ振り掛ケ潤シ與フヘシ

但シ多分ノ青草ヲ與フルハ下痢ヲ醸ス恐アレハ加減スヘシ

斃死處置

一 傳染病ト覺シキ症ニテ斃ル、モノアラハ廐舎ノ内外ヲ能ク洗ヒ硫

黃一斤ヲ薰シ石炭酸水ヲ散布シテ臭氣ヲ去ラシムヘシ尤モ病牛ノ

糞尿其外治療ニ用ヒタル一切ノ物品ハ深ク土中ニ埋ムルカ又ハ硫

黃ヲ散布シテ燒キ捨ツヘシ

一 病牛ヲ取扱ヒタル人ハ衣服ヲ取換ヘ身體ヲ清淨ニシ一周間ヲ經サ

レハ健牛ニ近ツクヘカラス

一 總云 斃牛ヲ取扱ヒタル場所ハ石炭酸水ヲ散布スヘシ生石灰ニテモヨシ
 二 傳染病生斃死ノ麻舎ハ六ヶ月経テ其蓋ヲ健牛ヲ繫公認ヲ認
 〔四十九〕 明治九年三月廿八日太政官第三十八號布告
 自今大禮服着用并ニ軍人及ヒ警察官吏等制規ニ依リて服用ス節ヲ除テ
 ノ外帶刀被禁候條此旨布告候事
 一 但違犯シ者ハ其刀可取正事
 〔五十〕 明治九年四月十七日太政官第五十四號布告
 社寺學校病院等寄附候土地建物其他物品等別段ノ契約無之分ハ寄
 附主并於テ其所有ニ離シタルモノトシテ一般ノ讓渡シテ以テ處分候條
 此旨布告候事
 〔五十一〕 明治九年四月十六日太政官第五十六號布告
 遺失物取扱規則
 遺失物取扱規則

第一條 凡遺失物ト稱スルハ自ラ其遺失スルヲ覺ラヌ及ヒ其所在ノ
 明カナラサルモノヲ云フ故ニ若シ其物ヲ得ルニ臨テ物主其場ニ就
 テ其主タルコトヲ證明スルニ於テハ直ニ之ヲ返還シ遺失物ヲ以テ論
 スルコトヲ得ス
 第二條 凡遺失ノ物ヲ得ルハ五日內ニ其主ニ還シ其主分明ナラザレ
 ハ之ヲ官ニ送ルヘシ官之ヲ榜示シ一年內其主ナキ時ハ之ヲ得者ニ
 給ス
 第三條 凡遺失者ハ其遺失スル物品ノ摸樣員數并ニ遺失ノ日時場所
 等ヲ可成丈ケ詳細ニ記載シ速カニ官ニ届出ヘシ
 但得者ヨリ其返還ヲ得ル時モ亦更ニ其旨ヲ届出ヘシ
 第四條 凡遺失ノ物ヲ得ルハ之ヲ其主ニ還スル雖モ其費用ヲ償ハシ
 ムルコトヲ得且得者ニ報勞ノヲシテ其物價百分ノ五ヨリ少カラス貳拾
 ヲリ多カラサル金圓ヲ給スヘシ若シ物主得者ト其價格ヲ争フ時ハ

官之評價ハ其價ヲ定ムルニ依リ其主納付シ其價額ハ
 第五條凡遺失物ヲ得ル物品盜賊ニ係ルモノハ直ニ官ニ送ルニ付
 管之ヲ其主ニ還付シ其費用ソ其價額ヨシハ官ニ償付シ其價額ノ額ハ
 第六條凡官私ノ地内ニ於テ埋藏物ヲ掘得ル者ハ並ニ官ニ送り地
 主ト申分地ノ主トシテ其價額ノ額ハ官ニ償付ス
 第七條其主分明ナルモノ及盜賊ニ係ルモノハ此限ニ在ラズ且埋藏物
 第七條凡遺失ノ物ヲ得ルニ若シ其物耐久ニ難クシテ其主分明ナラ
 申分時迅速ニ之ヲ官ニ送付シ官之申分賣シ其代價ヲ領付シ
 第八條凡家畜ノ類他所ニ逃走スルモノハ之ヲ遺失物ト稱スルヲ得
 第九條凡其主不明ニ遺失ノ官ニ報シ及遺得者ニ其費用並報勞金ヲ給與
 第十條第三條第四條ニ同意若他人ノ財産毀損毀ル時法律ニ照
 第十條分賣遺失物ノ時其價額ノ額ハ官ニ償付ス其價額ハ其遺失
 第十條凡遺失ノ物ヲ得ルニ若シ其物耐久ニ難クシテ其主不明ナラ
 申分時迅速ニ之ヲ官ニ送付シ官之申分賣シ其代價ヲ領付シ

第九條凡逃走スル畜類ヲ得ル者其主分明ナラサレハ之ヲ官ニ送
 付シ其價額ノ額ハ官ニ償付ス其價額ハ其遺失
 第十條凡其主不明ニ遺失ノ官ニ報シ及遺得者ニ其費用並報勞金ヲ給與
 第十一條凡警察官吏タル者其主不明ニ遺失ノ官ニ報シ及遺得者ニ其費用並報勞金ヲ給與
 第十二條凡一切應禁ノ物ヲ得レハ遺失及ヒ埋藏ヲ論セス並ニ官ニ
 報シ其費用並報勞金ヲ給與
 第十三條凡公債債證書地券諸鑑札等ノ類ハ遺失物ヲ以テ論スルヲ
 得ズ其主不明ニ遺失ノ官ニ報シ及遺得者ニ其費用並報勞金ヲ給與
 第十四條凡遺失物及ヒ逃走畜類ヲ得若クシテ埋藏物ヲ掘得ル官私ニ

全ク送還セズ或ハ物主ノ其主ナルヲ證明スルニ冒認シテ返還セ
サル者ハ并ニ律ニ照シテ處分ス

〔五十二〕 明治九年五月十五日内務省乙第六十號達

本年二月乙第貳十號疫牛處分假條例中左ノ通更正增加候條此旨相達候事

疫牛處分假條例

第五條增加并但書更正○牛疫云々其出入ヲ許スヘカラスノ下ニ尤四

方拾里以内畜牛無之場へ往復或ハ移轉スルハ此限リニ非スヲ二十

八字ヲ加フ但標札文面及ビ寸方等ハ其地方ノ適宜ニ任スヘシ尤右

費用ハ府縣稅ノ内ヨリ支出スヘシ

第七條 但書追加○牛病新書云々但醫員手當金ノ義ハ昨八年四月太政

官第四十九號公布第三條ニ準據シ其時々豫備金ヲ以テ支給致シ置

三ヶ月分取纏メ大藏省へ請取方申立ツヘシ○疫病ニ斃シ云々但燒

棄埋沒等ノ費用ハ所有主ノ自費スルヘシ

第十條 以下追加○第五條中健牛ノ他ヨリ限内ニ入ルヲ禁スルト雖モ

各開港場等外國人在留ノ地ニ於テ目下食料ニ欠乏スルカ如キハ嚴

重検査ノ上屠牛ヲ限リ此例ニ非ス

第十一條○隣府縣接比ノ村落ヨリ牛疫發起スルトキハ該縣ト協議シ

管轄ノ内外ニ關セズ限内ヲ定ムヘシ

〔五十三〕 明治九年五月十八日内務省甲第十六號布達

天然痘預防規則別紙ノ通相定候條其方法細目並ニ右ニ關スル費用収

集支給等ノ儀ハ各地方ノ便宜ニ從ヒ精々普及候様可取計此旨布達候

事

天然痘預防規則

第一條 小兒初生七十日ヨリ滿一年迄ノ間ニ必ズ種痘スヘシ若シ事

故アリテ此期ニ後ル、モノハ其次第ヲ醫務取締若シハ區戸長ニ届

クヘシ

今般朝鮮國、修好條規附錄并貿易規則別紙ノ通結約相成候條此旨布告候事

修好條規附錄

日本國政府、特命全權辦理大臣陸軍中將兼參議開拓長官黒田清隆、特命副全權辦理大臣議官井上馨ヲシテ朝鮮國江華府ニ詣ラシメ、同國政府ハ大官判中樞府事申擡副官都摠府副摠管尹滋承ニ委任シ、日本曆明治九年二月二十六日朝鮮曆丙子年二月初二日双方互ニ調印シタル修好條規第十一款ノ旨趣ニ隨ヒ、日本國政府ハ、理事官外務大丞宮本小一ニ委任シ、朝鮮國京城ニ詣リ、朝鮮國政府ハ、議修官議政府堂上趙寅熙ニ委任シ、相會同シテ議立スル條款左ニ開列ス

第一款 嗣後各港口駐留日本國人民管理官、朝鮮國沿海地方ニ於テ日本國ノ諸船困難ニ遭ヒ緊要ナリト聞クトキハ、地方官ニ告テ該地ニ到ル道路ヲ經過スルヲ得ヘシ

第二款 嗣後使臣及管理官ヨリ各所へ通スル送文ハ、自費ヲ以テ郵送

スルモ、或ハ該國人民ヲ雇ヒ專差スルモ各其便ニ從ズルコト

第三款 議定シタル朝鮮國通商各港ニ在リテ日本國人民地基ヲ租賃シテ住居スルハ、各其地主ト相議シテ價ヲ定ムヘシ、朝鮮國政府ニ屬スル地ハ、朝鮮國人民ヨリ官ニ納ムト同一ノ租額ヲ出シテ住居スヘシ

釜山草梁項日本公使館ニハ、從前同國政府ヨリ守門設門ヲ設ケシガ、今後之ヲ廢撤シ、ニ新定ノ程限ニ依リ標ヲ界上ニ立ツヘシ、他ノ二港モ亦此例ヲ照ス

第四款 嗣後釜山港ニ於テ日本國人民行步ヲ得ヘキ道路ノ里程ハ、波戶場ヨリ起算シテ、東西南北各直徑十里ニ朝鮮里ト定ム、東萊府中ニ至テハ、里程外ニ在リト雖、凡特ニ往來ヲ爲ス此里程内ニ於テ日本國人民隨意行步シ、其地ノ物産及日本國物産ヲ賣買スルヲ得ヘシ

第五款 議定シタル朝鮮國各港ニ於テ日本國人民ハ、朝鮮國人民ヲ賃雇スルヲ得ヘシ、朝鮮國人民其政府ノ許可ヲ得ハ、日本國ニ來スモ妨

ナシ

第六款 議定シタル朝鮮國各港ニ於テ日本國人民若シ死去シタルハ適宜ノ地所ヲ撰ミ埋葬スルヲ得ヘシ但他ノ二港ノ埋葬地ハ釜山埋葬地ノ遠近ノ例ニ依ル

第七款 日本國人民日本國ノ諸貨幣ヲ以テ朝鮮國人民ノ所有物ト交換シ得ヘシ又朝鮮國人民ハ交換シ買得タル日本國ノ諸貨幣ヲ以テ日本國ノ諸貨幣ヲ買入ル、爲メ朝鮮國指定ノ諸港ニテハ人民相互ニ通用スルヲ得ヘシ日本國人民ハ朝鮮國銅貨幣ヲ使用運輸スルヲ得ヘシ兩國人民私ニ錢貨ヲ鑄造スル者アソハ各其國ノ法律ニ照シテ處斷スヘシ

第八款 朝鮮國人民日本國人民ヨリ買得タル貨物或ハ贈與ヲ受タル諸物品ハ隨意使用シテ妨ナシ

第九款 修好條規第七款ニ載スル旨趣ニ從ヒ日本國測量船小船ヲ放

テ朝鮮國沿海ヲ測量スルル或ハ風雨ニ逢ヒ或ハ干潮ノ爲メ本船ニ歸ル能ハザルルハ該處里正ヨリ其近傍ノ人家ニ安着セシムヘシ若シ需用ノ物品アラハ官ヨリ辨給シ後日其入費ヲ完済スヘシ

第十款 朝鮮國ハ未タ海外諸國ト通信セス日本國ハ年來諸國ト締盟友誼アルノ故ヲ以テ今後朝鮮國ノ沿海ニ諸國ノ船舶風波ノ爲メ困難シ漂着スルアラハ朝鮮國人民理ニ於テ之ヲ愛恤セザルナシ該漂民本國ニ送還セラレシ望マハ朝鮮國政府ヨリ各港口駐留ノ日本國管理官ニ遞付シ本國ニ送還セシム該官之ヲ領諾セザルナシ

第十一款 右十款ノ章程及之ニ添ヘタル通商規則共修好條規ト同一ノ權ヲ有ス兩國政府遵行シテ違フ莫カルヘシ然レ此各款中若シ兩國人民交際貿易上實地ノ障礙ヲ生シ改革セザル可カラザル事柄ヲ認ムルルハ兩國政府其議案ヲ作り一箇年前報知シテ協議決定スベシ

大日本紀元二千五百三十六年明治九年八月二十四日

大朝鮮開國四百八十五年丙子七月初六日

講修官議政府堂上趙寅熙印

朝鮮國議定諸港ニ於テ日本國人民貿易規則

第一則 日本國商船ヲ通信ニ用フル諸船ヲ除ク朝鮮國ニテ許可セシ

諸港ニ入津ハ片船主或ハ船長日本國人民管理官ヨリ渡シタル證書

ヲ三日ノ内ニ朝鮮國官廳ニ差出スヘシ

所謂證書ナル者ハ船主所持ノ日本國船籍航海公証ノ類ヲ入港ノ

日ヨリ出港ノ日マテ管理官ニ差出シ置キ管理官ヨリ此證書類ヲ

預ルタル証票ヲ與フ是ヨリ日本國現時施行ノ商船成規ト爲ス船主

本港碇泊中此証票ヲ朝鮮國官廳ニ差出シ日本國公商船タルヲ

驗明ス

此時船主又其記錄簿ヲ差出スヘシ

所謂記錄ナル者ハ船名並ニ本船ヲ發スルノ地名積荷ノ噸數共ニ船舶

定シ積算ノ名船長ノ姓名乗組水夫ノ人員船客ノ姓名ヲ詳記シ船

主調印シタル者ナリ

此時船主又本船積荷ノ報單並船内所用雜物ノ簿記ヲ差出スヘシ

所謂報單ナル者ハ積荷ノ名或ハ其物質ノ實名並荷主ノ姓名記號

番號ヲ詳記シテ記號番號ナキ積荷物報知スルナリ此報單及其他書

類共何レモ日本國文ヲ用ヒテ漢譯文ヲ副ルナリ

第二則 日本國商船進港ノ積荷ヲ陸揚ゲメント欲スル片ハ船主或ハ

荷主ヨリ更ニ積荷ノ物名并元價斤量個數ヲ書記シ朝鮮國官廳ニ届

出ヘシ官廳届書ヲ得ハ速ニ荷卸シ免狀ヲ渡スヘシ

第三則 船主或ハ荷主第二則ノ免狀ヲ得タルノ後其積荷ヲ陸揚ス

ヘシ朝鮮國官吏若シ之ヲ檢査セント要スレハ荷主敢テ之ヲ拒ム

ナシ官吏亦注意検査シテ之ヲ爲メ毀損ヲ致スコトナカレ
第四則 出港セントスル荷物ハ荷主第二則入港積荷届書ノ式ニ照シ
船名並荷物ノ品書個數ヲ書記シ朝鮮國官廳ニ届出ヘシ官廳ハ速ニ
之ヲ許可シ出港荷物免狀ヲ渡スヘシ荷主免狀ヲ得ハ本船ニ積込
ヲ得ヘシ官廳若シ其荷物ヲ検査セント要スレハ荷主敢テ之ヲ拒ム
コトナシ

第五則 日本國商船出港ヲ要スルキハ前日正午前ニ朝鮮國官廳ニ告
知スヘシ官廳報ヲ得ハ當テ預リ置キタル証書ヲ還附シ出港免狀ヲ
渡スヘシ日本國郵便船ハ成規ノ時限ニ拘ハラスシテ出港スルトモ
必ス官廳ニ報知スヘシ

第六則 嗣後朝鮮國諸港口ニ於テ粮米及雜穀トモ輸出入スルヲ得ヘ
シ
第七則 港稅 連桅樁ノ商船及蒸氣商船稅金五圓 單桅樁ノ商船稅

貳圓 荷物五百 單桅樁ノ商船稅金壹圓五十錢 荷物五百石以下積
日本國政府ニ屬スル諸船舶ハ港稅ヲ納レンス 俱ニ付屬脚艇ヲ除

第八則 朝鮮國政府或ハ人民諸物品ヲ不開港場ノ口岸ニ運輸セント
欲スルハ日本國商船ヲ雇入ル、コトヲ得ヘシ雇主若シ人民ナレハ
朝鮮國政府ノ免狀ニ照シテ雇役スヘシ

第九則 日本國船隻若シ通商ヲ許サザル朝鮮國ノ港口ニ到リ私ニ賣
買ヲ爲スナ該地方官見届タルハ最寄管理官ニ引渡スヘシ管理官
ハ其所得ノ錢物一切ヲ取上ケテ朝鮮國官廳ニ交付スヘシ

第十則 鴉片煙販賣ヲ嚴禁ス
第十一則 兩國現ニ定ムル規則ハ今後兩國商民貿易形況ニ依リ各委
員時ニ隨テ事情ヲ酌量シ商議改正スルヲ得ヘシ此カ爲メ兩國委員
各調印シテ即日ヨリ遵行セシム

大日本國紀元二千五百三十六年明治九年八月廿四日

大朝鮮國開國四百八十五年丙子七月初六日
理事官外務大丞宮本小一印
謹脩官議政府堂上趙寅熙印

〔五十七〕 明治九年十月十四日太政官第百二十八號布告

從前朝鮮國貿易ノ儀ハ對馬國人民ヨリ限取引イタサセ候處本年三月第
三十四號布告修好條規及今般第百二十七號布告修好條規附錄并貿易
規則ノ趣旨ニ遵ヒ一般ノ人民同國釜山港ニ渡航セント欲スル者ハ差
許サシ候條海外免狀又ハ航海公證ヲ使府縣廳又ハ其支廳ヨリ申受渡
航可致候尤旅行先ヨリ急ニ渡航セント欲スル者ハ本人ヨリ其貫籍ヲ
明白ニ書記シ旅行先地方ノ廳ニ願出許可ヲ受ヘシ候此旨布告候事
但釜港ノ外開港ノ場所ハ追テ確定スル上尙可布告事

〔五十八〕 明治九年十月十四日太政官第百二十九號布告

自今朝鮮國貿易品ノ輸出入トモ日本國內地ニテ諸物品ヲ運送スルト

同様に相心得輸出セシムル物品ハ開港場ハ稅關其他ハ出船地ノ
區務所ヨリ荷物送り狀ニ檢印申受朝鮮國開港場派出ノ日本管理ニ右
送り狀差出朝鮮地方ニ輸入濟ノ檢印ヲ申受日本國ニ歸着ノ後最前出
船場ニ元地ニ右送り狀可届返候朝鮮國ヨリ輸出ニ來ル物品ハ送り狀
管理官ノ檢印申受日本各地ニ陸揚セントスル節右檢印有之送り狀
ヲ其地稅關又ハ區務所ニ差示シタル上陸揚ケ可致候此旨布告候事

〔五十九〕 明治十年一月四日太政官第二號布告

今般地租減額費用節省被仰出候ニ付テハ明治六年七月第百七拾二號
布告民費賦課ノ儀明治十年ヨリ正租五分ノ一ヨリ超過スヘカラス此
旨布告候事

〔六十〕 明治十年一月廿八日太政官第拾三號布告

各府縣官署布達ニ依テ條規ニ違犯スル者ハ裁判官ニ於テ壹圓五拾
錢以内ノ罰金科スルニ決テ罰金五十圓

〔六十一〕 明治十年二月大政官第十七號布告

保釋條例別冊ノ通創定候條此旨布告候事

保釋條例

- 第一條 保釋トハ刑事被告人ヲシテ保証人ヲ立テ保証金ヲ出シ審訊中ノ繫留ヲ免レシムルモノヲ云フ
- 第二條 裁判官ハ被告人ノ遁逃シ或ハ罪証ヲ隱滅ズルコトナキヲ察スレハ懲役終身以上ニ該ルヘキ者及ヒ先キニ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ヲ除クノ外保釋ヲ許スヘキモノトス
- 第三條 被告人タル者及ヒ其保証人タラント欲スル者ハ何時ニテモ保釋ヲ願フコト得ヘシ裁判官ハ速カニ之ヲ許否スヘシ事由ナクシテ遷延五日ヲ過ルコト不得ス
- 第四條 保証人ハ貳名以上トス然レハ裁判官ノ見込ニヨリ被告人ニテ充分ナリト認ムル時ハ此例コナラス

第五條 保証金高ハ被告人ノ罪情ノ輕重及ヒ被告人保証人ノ貧富ニ應シ裁判官相當ノ額ヲ定メ被告人及ヒ保証人連帶シテ之ヲ出サシム

第六條 保証人ハ被告人ヲシテ何時ニテモ裁判所ノ呼出ニ應シ出頭セシムルノ責ニ任スヘシ

第七條 保釋ヲ得ルノ被告人其住所ヲ定ムルハ裁判官ノ承諾ヲ得ヘシ且事故ナクシテ擅ニ他出スルコトヲ許サス

第八條 保証人ハ被告人ノ遁逃シ及ヒ罪証ヲ隱滅セントスルヲ察スレハ直チニ官ニ告クヘシ若シ事急ナル時ハ自ラ拘引スルコト得ヘシ此場合ニ於テ保証人保釋ヲ辭スル時ハ其保証金ヲ還付シ被告人ハ更ニ他ノ保釋ヲ願フコト不得

第九條 被告人裁判所ノ呼出ヲ受ケテ出頭セサル時ハ直チニ之ヲ逮捕セシメ再ヒ保釋ヲ許サス仍ホ保釋金ハ官ニ沒ス

但劇病等不得止事故アルモノハ此限ニアラス

第十條 被告人保釋中逃走スル者ハ脱監越獄ヲ以テ論ス其保証人逃

走タルヲ覺ラサル者ハ保証金ヲ官ニ没シ故縱スルモノハ主守不覺

失因律中故縱スル者ヲ以テ科斷ス仍ホ保証金ハ官ニ没ス

第十一條 保証人タルヘカヲサル者左ノ如シ

第一 被告人ノ犯罪ニ付關係アル者

第二 懲役五年以上ノ刑ニ處セラレシ者

第三 老幼婦女其他不能力者

第十二條 被告人保釋中壹名ノ保証人其保証ヲ辭スルカ又ハ亡歿ス

ル時ハ更ニ他ノ保証人ヲ撰ム

第十三條 被告人ノ裁判言渡ヲ受ル時ハ保証金ハ直ニ還付スヘシ

第十四條 若シ裁判官私營ヲ懷狹シ故ラニ保釋ヲ許サズ時ハ故禁

無罪人律ヲ以テ論ス

第十五條 裁判不服ヲ以テ大審院ニ上告シ上告中拘置セララル者モ

亦此例ヲ通シ用フヘシ

附則

違警罪又ハ其他ノ刑事被告人ニテ從來親戚又ハ書記區戶長預々等ノ

先規アルモノハ此保釋條例ト并ヒ行フコトヲ得

〔六十二〕 明治十年九月内務省甲第二十號布達

明治九年四月太政官第五十六號ヲ以遺失物取扱規則中第六條埋藏物

掘得ル者處分ノ儀公布相成候處右物品ノ中古代ノ沿革ヲ徵スルモノ

モ有之候ニ付處分前一應當省ヘ届出検査ヲ可受其品ニヨリ相當代價

ヲ以テ購求シ官私中分ニ係ルモノハ其價格ノ半高ヲ掘發人ヘ下附シ

該物品ハ永ク博物館ヘ陳列可致候條此旨布達候事

但物品ハ先ツ掘出地名及形狀等ヲ詳記シ及ヒ摸寫スルモノヲ郵送

シ其見込アルモノニテ遞送方相達候後本文之通可取計候事

〔六十三〕 明治十一年四月十八日內務省乙第三十五號達

近年アニリン其他鐵屬製ノ繪具染料ヲ以テ飲食物ニ着色スルモノ不
掛起ニ候處右ハ自然人身ノ健康ヲ害スルハ勿論中ニハ甚シキ中毒ニ
罹リ忽地ニ非命ノ横夭ヲ致スモノモ有之危險ノ至リニ候條各地方廳
ニ於テ注意取締可致此旨相達候事

追テ地方慣用ノ品ニヨリ毒性分ノ有無判然難致モノハ其原物相添
當省衛生局ヘ照會試驗ヲ受可申事

〔六十四〕 明治十一年四月三十日內務省乙第三十八號達

租稅未納ノ者處分ノ儀昨十年十一月第七十九號公布相成右取級方ニ
付大藏省ヨリ本年二月乙第七號ヲ以テ達シ有之候處民費ノ儀ハ目下
支消スヘキ費用賦課徵集候筋ニテ改正未濟地租假納ト同様ノ振リニ
ハ無之ニ付納期三十日ヲ經過候ヘハ直ニ七十九號公布規則ニ準シ處
分可致答ニ付爲心得此旨相達候事

但民費不納公賣ノ節假納中ノ地租ヲ徵収スル時ハ其年ノ石代相場
ヲ以テスヘシ其年ノ石代未決ナレハ前年ノ石代ヲ以テスヘシ

〔六十五〕 明治十一年七月廿二日太政官第十七號布告

郡區町村編制法左ノ通被定候條此旨布告候事

第一條 地方ヲ畫シテ府縣ノ下郡區町村トス

第二條 郡町村ノ區域名稱ハ總テ舊ニ依ル

第三條 郡ノ區域廣濶ニ過キ施政ニ不便ナル者ハ一郡ヲ畫シテ數郡
トナス(東西南北上中下某郡ト云カ如シ)

第四條 三府五港其他人民輻湊ノ地ハ別ニ一區トナシ其廣濶ナル者
ハ區分シテ數區トナス

第五條 每郡ニ郡長各一員ヲ置キ每區ニ區長各一員ヲ置ク郡ノ狹少
ナル者ハ數郡ニ一員ヲ置クヲ得

第六條 每町村ニ戶長各一員ヲ置ク又數町村ニ一員ヲ置クヲ得

但區内ノ町村ハ區長ヲ以テ戶長ノ事務ヲ兼スルコトヲ得
〔六十六〕 明治十一年七月廿二日太政官第十九號布告
從前府縣稅及民費ノ名ヲ以テ徵收セル府縣費區費ヲ改テ更ニ地方稅
トシ規則左ノ通被定候條此旨布告候事

第一條 地方稅ハ左ノ目ニ從ヒ徵收ス
一 地租五分一以內

一 營業稅並雜種稅

一 戶數割

第二條 營業稅雜種稅ノ種類及制限ハ別段ノ布告ヲ以テ之ヲ定ム

第三條 地方稅ヲ以テ支辨スヘキ費目左ノ如シ

一 警察費

一 河港道路堤防橋梁建築修繕費

一 府縣會議諸費

一 流行病豫防費

一 府縣立學校費及小學校補助費

一 郡區廳舍建築修繕費

一 郡區吏員給料旅費及廳中諸費

一 病院及救育所諸費

一 浦役場及難破船諸費

一 管内限リ諸達書及揭示諸費

一 勸業費

一 戶長以下給料及戶長職務取扱諸費

各町村限及區限ノ入費ハ其區内町村内人民ノ協議ニ任テ地方稅ヲ

以テ支辨スルノ限ニテナス

第四條 其年七月ヨリ翌年六月迄之一週年度トナシ府知事縣令ハ其
年二月迄ニ地方稅ヲ以テ支辨スルニ經費ノ豫算并地方稅徵收ノ豫

算ヲ立テ翌年度ノ定額トナシ其府縣會ノ議決ヲ取リ其年五月ヲ以テ内務卿及大藏卿ニ報告スヘシ其未タ府縣會ヲ設置セサル地方ハ直ニ内務卿及大藏卿ニ報告スヘシ

第五條 非常ノ費用ハ豫算ニ立ツルヲ得サル天災時變ノ費用ヲ云フ別ニ賦課スルヲ得ルト雖モ其府縣會ノ議決ヲ取リ内務卿及大藏卿ニ報告スルハ第四條ノ順序ニ從フヘシ其急施ヲ要スル事項ハ施行シテ後報告スヘシ

但報告期限ハ第七條ニ依ル

第六條 地方稅徵収ノ期限ハ府知事縣令適宜ニ之ヲ定ムヘシ

第七條 府知事縣令ハ毎年七月ニ至リ其一週年度間ノ出納ヲ計査シ精算帳及計表ヲ製シテ内務卿及大藏卿ニ報告スヘシ且翌年通常會議ノ初ニ於テ之ヲ府縣會ニ報告スヘシ

〔六十七〕 明治十一年七月廿二日太政官第十八號布告

府縣會規則左之通被定候條此旨布告候事

第一章 總則

第一條 府縣會ハ地方稅ヲ以テ支辨スヘキ經費ノ豫算及ヒ其徵收方法ヲ議定ス

第二條 府縣會ハ通常會ト臨時會トノ二類ニ別ツ其定期ニ於テ開ク者ヲ通常會トナシ臨時ニ開ク者ヲ臨時會トナス

第三條 通常會臨時會ヲ論セス會議ノ議案ハ總テ府知事縣令ヨリ之ヲ發ス

第四條 臨時會ハ其特ニ會議ヲ要スル事件ニ限リ其他ノ事件ヲ議スルヲ得ス

第五條 凡ソ地方稅ヲ以テ施行スヘキ事件ハ府縣ノ會議ニ付シ其議決ハ府知事縣令認可ノ上之ヲ施行スヘキ者トス若シ府知事縣令其議決ヲ認可スヘカラスト思慮スル時ハ其事由ヲ内務卿ニ具狀シテ

指揮ヲ請フヘシ

第六條 府縣會ハ毎年通常會議ノ初メニ於テ地方税ニ係ル前年度ノ
出納決算ノ報告書ヲ受シ

第七條 通常會期中議員ノ内一人又ハ數人其府縣内ノ利害ニ關スル
事件ニ付政府ニ建議セントスル者アレハ議長ノ許可ヲ得テ之ヲ會
議ニ付シ過半数ノ同議ヲ得タルトハ其會ノ所見トシ議長ノ名ヲ以
テ之ヲ内務卿ニ建議スルヲ得

第八條 府縣會ハ府知事縣令ヨリ其府縣内ニ施行ス可キ事件ニ付會

議ノ意見ヲ問フコトアルトハ之ヲ議ス

第九條 府縣會ハ議事ノ細則ヲ議定シ府知事縣令ノ認可ヲ得テ之ヲ
施行スルコトヲ得

第二章 撰擧

第十條 府縣會ノ議員ハ郡區ノ大小ニ依リ每郡區ニ五人以下ヲ撰ブ

第十一條 議長副議長ハ議員中ヨリ公撰シ府知事縣令之ヲ認可シ内
務卿ニ報告スヘシ

議長副議長及ヒ議員ハ俸給ヲ受ケ但會期中滞在日當及ヒ往復旅費ヲ
給ス其額ハ會議ノ議決ヲ以テ之ヲ定ム

第十二條 書記ハ議長之ヲ選ビ庶務ヲ整理セシム其俸給ハ會費ノ中
ヨリ之ヲ支給ス

第十三條 府縣ノ議員タルコトヲ得ヘキ者ハ滿二十五歳以上ノ男子ニ
シテ其府縣内ニ本籍ヲ定メ滿三年以上住居シ其府縣内ニ於テ地租
十圓以上ヲ納ムル者ニ限ル但左ノ各款ニ觸ルル者ハ議員タルコトヲ
得ズ

第一款 風癩白痴ノ者

第二款 懲役一年以上實決ノ刑ニ處セラレタル者

第三款 身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘサル者

第四款 官吏及教導職

第十四條 議員ヲ選舉スルヲ得ヘキ者滿二十歲以上ノ男子ニシテ其郡區内ニ本籍ヲ定メ其府縣内ニ於テ地租五圓以上ヲ納ムル者ニ限ルヘシ

但前條ノ第一款第二款第三款ニ觸ル者ハ選舉人タルヲ得ス

第十五條 議員ヲ選舉セントスルハ府知事縣令ヨリ某月間ニ選舉會ヲ開シヘキ旨ヲ布令シ郡區長ハ豫メ選舉ノ投票ヲ爲スヘキ日ヲ定メ少クモ十五日前ニ之ヲ郡區内ニ公告スヘシ

第十六條 選舉ノ投票ハ豫定ノ日ニ郡區廳ニ於テ之ヲ爲シ郡區長之ヲ調査シ選舉會中ノ取締ヲ爲スヘシ

但便宜ニ因リ郡區廳外ニ於テ選舉會ヲ開クヲ得

第十七條 投票ハ豫メ郡區長ヨリ付與シタル用紙ニ選舉人自己及ヒ被選人ノ住所姓名年齢ヲ記シ豫定ノ日之ヲ郡區長ニ出スヘキ投票

ノ票ヲ以テ投票人ノ年長ヲ取リ同年ノ者ハ屬シ以テ之定ム

但投票代人ニ托シ差出スモ妨ナシ

第十八條 投票終ルノ後郡區長ハ選舉人名簿ニ就テ投票ノ當否ヲ查シ又被選人名簿ニ就テ當選人ノ當否ヲ查ス若シ法ニ於テ不適當ナル者アルカ或ハ當選人自ラ其撰ヲ辭スルハ順次投票ノ多數ヲ得タル者ヲ取ル

第十九條 當選人ノ當否ノ查定スルノ后郡區長其當選人ヲ郡區廳ニ呼出シ當撰狀ヲ渡シ當選人ハ請書ヲ出スヘシ

但當選人各請書ヲ出シタル后郡區長ハ其姓名等ヲ郡區内ニ公告スヘシ

第二十條 一人ニシテ數郡區ノ撰ニ當ルハ其何レノ郡區ニ屬スヘキハ當人ノ好ニ任スヘシ

第廿一條 議員ノ任期ハ四年トシ二年毎ニ全數ノ半ヲ改撰ス第一回
 第三年期ノ改撰ヲ爲ス其抽籤法ヲ以テ其退任ノ人ヲ定メ
 第廿二條 議長副議長ノ任期ハ二年トシ議員ノ改撰毎エ之ヲ公撰ス
 第廿三條 前三條ノ場合ニ於テハ前任ノ者ヲ再撰スルコトヲ得
 第廿四條 議員中第十三條ニ掲クル諸款ノ場合ニ遭遇スル者アルカ
 其府縣外ニ轉任スルカ又ハ死去シタルトハ更ニ其欠ニ代ル者ヲ撰
 舉ス其疾病等止ニ得ザル事故ヲ以テ開會ヲ召集ニ應ゼザル者
 ハ退職者ト亦其欠ニ代ル者ヲ撰舉スルコトヲ得
 第三章 議則
 第廿五條 議員半數以上出席セザルニ當リ當日ノ會議ヲ開クヲ得ス
 第廿六條 會議ハ過半數ニ依テ決ス可否同數ナルトハ議長ノ可否ス
 ル所ニ依テ決ス

第廿七條 府知事縣令若クハ其代理人ハ會議ニ於テ議案ノ旨趣ヲ辨
 明スルヲ得

但決議ノ數ニ入ルコトヲ得ス

第廿八條 會議ハ傍聴ヲ許ス但シ府知事縣令ノ要メニ依リ又ハ議長
 ノ意見ヲ以テ傍聴ヲ禁スルヲ得

第廿九條 議員ハ會議ニ方リ充分討論ノ權ヲ有ス然レトモ人身上ニ付
 テ褒貶毀譽ニ涉ルコトヲ得ス

第三十條 議場ヲ整理スルハ議長ノ職掌トス若シ規則ニ背キ議長之
 ナ制止シテ其命ニ順ハサル者アルトハ議長ハ之ヲ議場外ニ退去セ
 シムルヲ得其強暴ニ涉ル者ハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルヲ得

第四章 開閉

第卅一條 府縣會ハ毎一年一度三月ニ於テ之ヲ開ク其開閉ハ府知事縣
 令ヨリ之ヲ命ジ會期ハ三十日以内トス但府知事縣令ハ會議ノ衆議

ヲ取リテ其日限ヲ伸ルヲ得ルト雖モ其事由ヲ直ニ内務卿ニ報告スヘシ

第卅二條 通常會期ノ外會議ニ付スベキ事務アル時府知事縣令ハ臨時會ヲ開クヲ得

但該會ヲ要スル事由ヲ直ニ内務卿ニ報告スベシ

第卅三條 會議ノ論說國ノ安寧ヲ害シ或ハ法律又ハ規則ヲ犯スヲアリト認ルルキハ府知事縣令ハ會議ヲ中止セシメ内務卿ニ具狀シテ其指揮ヲ請フベシ

第卅四條 會議中國ノ安寧ヲ害シ或ハ法律又ハ規則ヲ犯スヲアリト認ルル時ハ内務卿ハ何レノ時ヲ問ハス閉會ヲ命シ又ハ議員ノ解散ヲ命スルヲ得

第卅五條 内務卿ヨリ解散ヲ命シタル中ハ更ニ議員ヲ改撰スベシ
〔六十八〕 明治十一年十二月廿日内務省第八十七號達

從來有職士族之儀ハ平民同之救助不相成規ニ候處先般第貳拾五號ヲ以テ金祿公債証書書入質入賣買不苦旨公達相成候ニ付テハ向後士族平民ヲ論ゼズ鰥寡孤獨廢疾等之者ハ明治七年第百六十貳號同八年第百貳拾貳號公達ニ照準夫々救助施行候儀ト可相心得此旨相達候事

57-14-45

明治十二年六月廿三日出版御届

兵庫縣士族

編輯兼
出版人

法 貴 發

筑前福岡天神丁七十
一番地寄留

福岡橋口町書林

佐 賀 男 夫

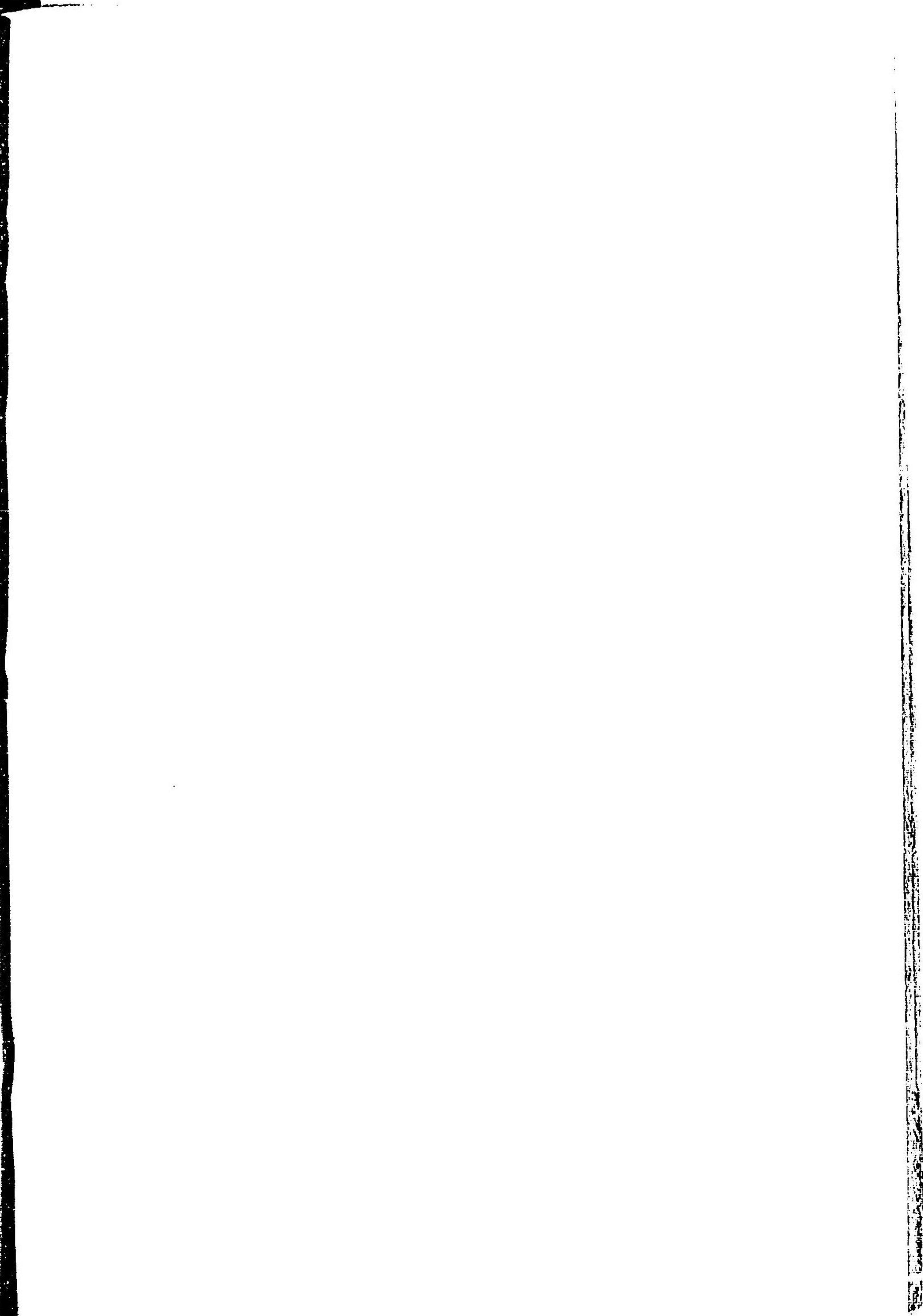
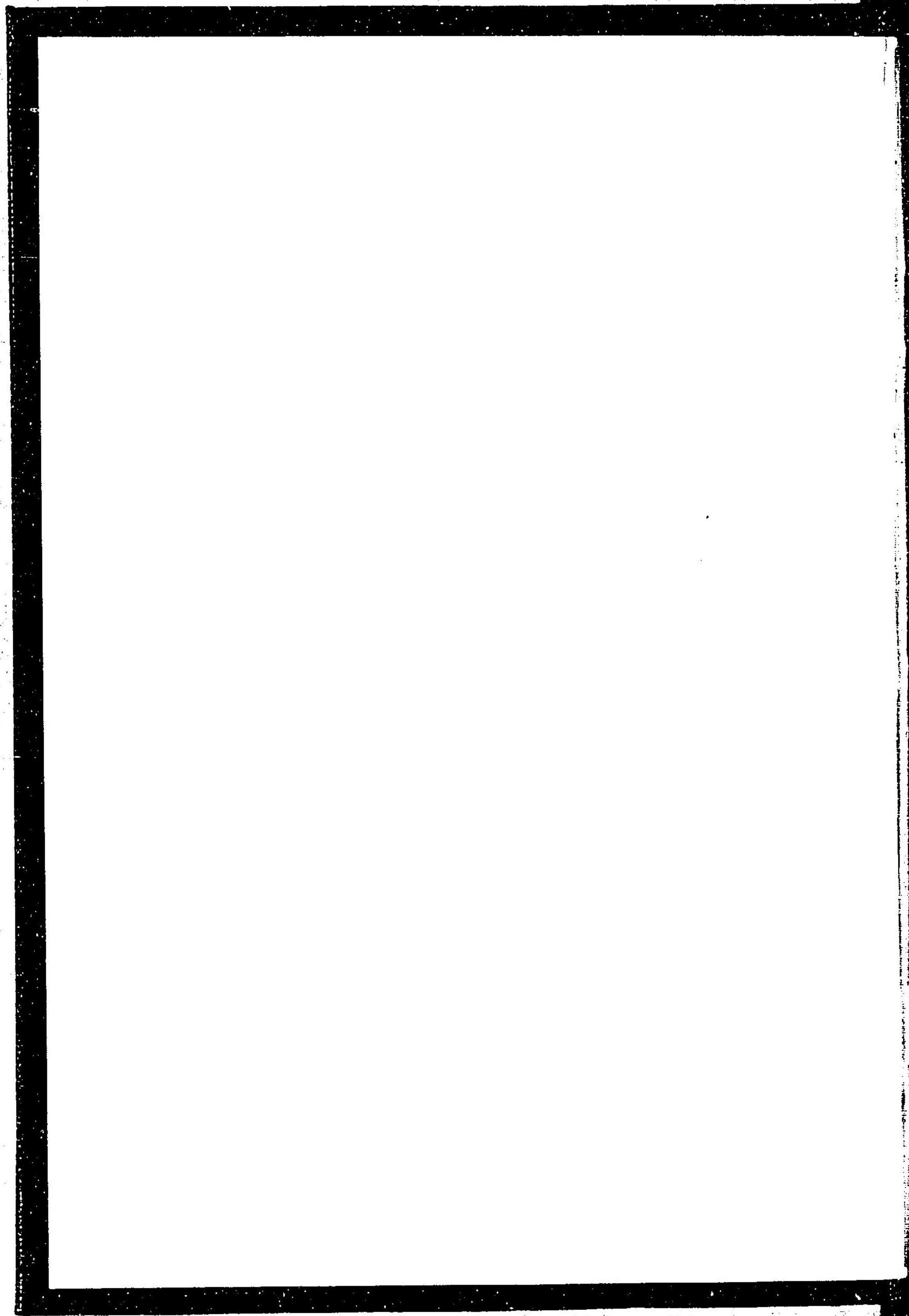
東京芝三島町書林

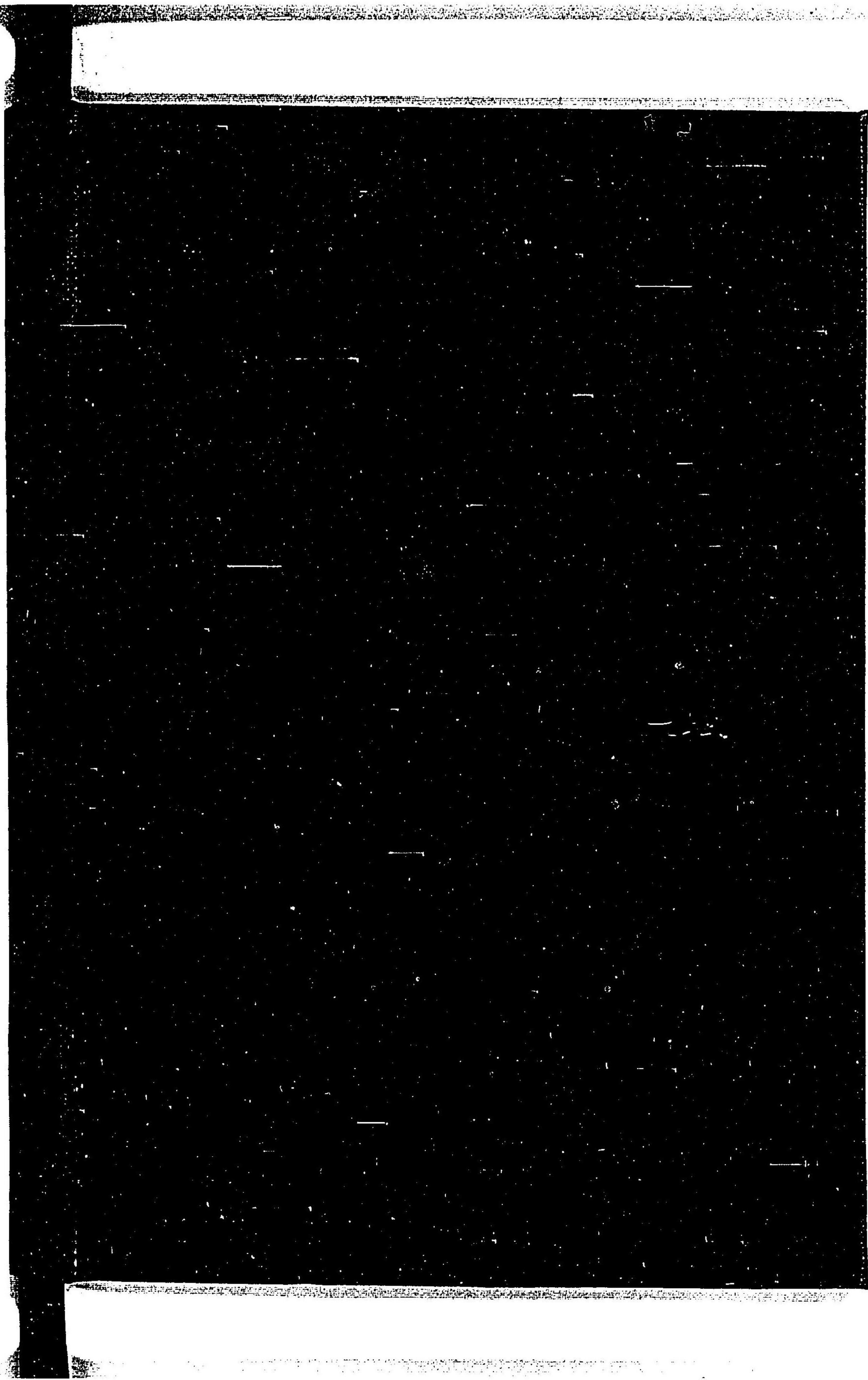
山 中 市 兵 衛

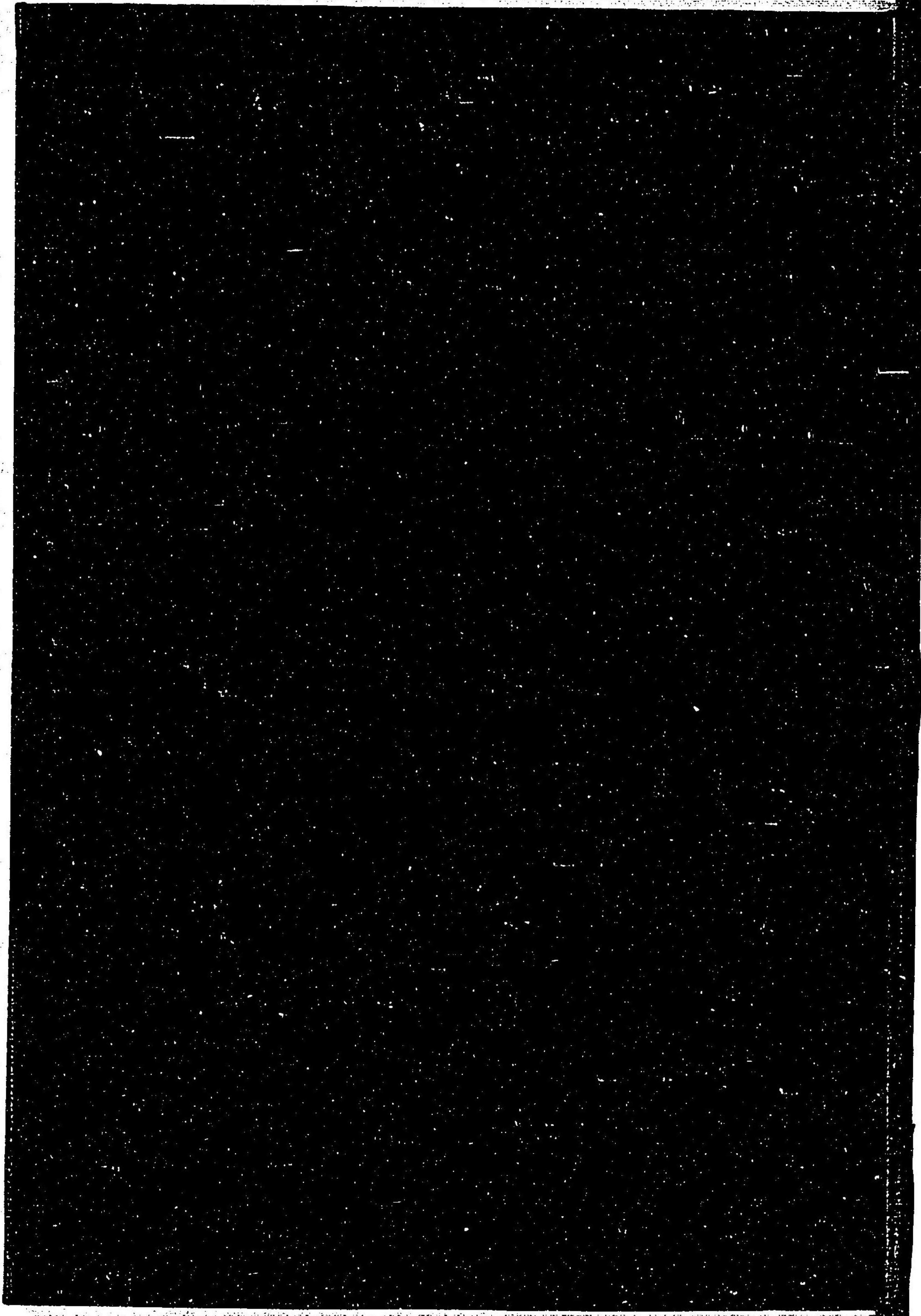
全日本橋通三丁目

稻 田 佐 兵 衛

發 兌 人







030901-000-7

CZ-5-0123

官令類編 明治元一十二年三月

法貴発

M12

BBC-0213



